

富田純明著「感動のユネスコ世界遺産 300 図鑑 - 私が撮った文化遺産・自然遺産・複合遺産 - 」

KK ロングセラーズ 2010年8月2日刊を読む

感動のユネスコ世界遺産300図鑑 - 私が撮った文化遺産・自然遺産・複合遺産 -

[はじめに]

- 1 . 私が小・中学生の頃、当時、長野に疎開していた祖父母の寺や、母の実家である群馬の祖父母の所に何度も行っているうちに旅をすることが好きになりました。大学の 4 年間で北は礼文島、利尻島から南は沖縄まで、すべての都道府県庁所在地と全国の周遊指定地(名所・旧跡)を廻りました。
- 2 . これが私の世界遺産巡りの出発点になったと思っております。
- 3 . 創業した会社は社会のさまざまな事情を受けながらも 35 年程前から経営が安定してきたのを機に、最初は近隣の国に出掛けるようになり、社員旅行も海外にし、ライオンズクラブの国際大会等までも毎年参加するよういたしました。その結果、国連加盟国(193ヶ国)中の 154ヶ国に旅をするに至りました。
- 4 . 25 年位前からユネスコ世界遺産が、日本でも多くの方々に評価されるようになり、折角、行くのであれば、ユネスコ指定の世界遺産に足を延ばそうと思い、その後、積極的に訪れるように致しました。
今日まで訪れたユネスコ世界遺産は 335ヶ所に及びます。しかし、世界にはユネスコ世界遺産に認定されてはいませんが、世界遺産に劣らない素晴らしい名所や旧跡が数多くあります。
- 5 . 今回はユネスコ世界遺産に限りまして 312ヶ所を選び、1冊の写真集としてエッセイを交えながらまとめることができました。
- 6 . 是非、本書を通して皆さまが世界遺産の旅を試みようと思っていただければ幸甚に存じます。

P1

[あとがき]

- 1 . 「まこと人生が遍路そのものである如く、洋行くと云う華やかに聞ゆる言葉も、み佛の子には、遍路の旅に佛恩を受ける行者と等しく、私にとっては正しい信仰の練行場でありました」。これは私の父が、「白山丸」という船で世界一周をし、その写真と記録を「来しかた遠し」という本にまとめた『はしがき』の終りの部分です。

- 2 . 父は昭和 9 年、10 ヶ月に亘って祖父に指導されながら洋行し、帰国後 1 年で母と結婚し、昭和 12 年に私が誕生。しかし、その父は私が小学校 1 年生の時に徴兵され、フィリピンで戦死。家業は寺の住職でしたが、その寺は叔父が継ぐことになりました。
- 3 . その叔父と同居していた祖父は足を悪くしており、毎週、私を呼び出して、古本屋巡りや図書館に通い、いろいろと人生について教えてくれました。そこで、しきりに僧侶になるように勧められましたが、当時の私は出家することに抵抗があったため、自分の意志を貫いて一般大学に進み、自分なりの道を拓いてきました。
- 4 . 寺を継ぐことはなかったのですが、宗教や哲学については関心が強く、特に、仏教や密教に興味を覚え、シルク・ロードや八大仏跡、さらには、密教が生まれたといわれる「ナーガルジュナコンダ」や「ウダイギリ・ラトナギリ」にも行く機会に恵まれました。また、イスラム教やキリスト教、ヒンズー教、道教、儒教の聖地といわれる場所を訪れた際には大きな感銘を受けました。
- 5 . 私は常々目的を持って旅をすることは大切だと思いながらも、宗教や仏教について素人の私が語るにはまだ早いと思い、多くの国々を訪れた経験からユネスコ世界遺産を中心に写真集にまとめることにいたしました。但し、30 年以上前の記憶に頼って制作していますので、記憶違いのデータや写真もあるかと懸念されますが御容赦をお願いいたします。
- 6 . ユネスコ世界遺産は年々指定地域が増え続けていますが、健康の許す限り世界中への旅を続けたいと思います。

P299

[コメント]

154 ヶ国、312 ヶ所を 35 年間かけてまわり、御自分自身で撮影した写真とエッセイを 302 ページの大型版にまとめた、日進レンタカー社長の富田さんの人生を懸けた一冊。一日の終わりに、いつの日か自分も訪れたいと思いつつゆっくと味わうべき著作。

- 2010 年 7 月 30 日林 明夫記 -